

令和6年度第1回厚木市セーフコミュニティ推進協議会 議事概要

1 開催日時 令和6年7月24日(水) 午後3時から4時まで

2 開催場所 厚木市役所 本庁舎4階 大会議室

3 出席者 厚木市セーフコミュニティ推進協議会委員 46人

4 案件

- (1) 役員(副会長)の指名について
- (2) 令和6年度セーフコミュニティ活動スケジュールについて
- (3) 厚木市セーフコミュニティの今後の推進体制について
- (4) 令和5年安全・健康・コミュニティに関する調査の結果について

5 配布資料

- (1) 令和6年度第1回厚木市セーフコミュニティ推進協議会会議次第
- (2) 厚木市セーフコミュニティ推進協議会設置規程
- (3) 厚木市セーフコミュニティ推進条例
- (4) 令和6年度厚木市セーフコミュニティ推進協議会名簿
- (5) セーフコミュニティ活動に係る今後のスケジュール
- (6) 厚木市セーフコミュニティ今後の推進体制
- (7) 厚木市セーフコミュニティ推進のためのロードマップ
- (8) 令和5年度安全・健康・コミュニティに関する調査結果
- (9) セーフコミュニティ国際認証をめぐる現況について
- (10) 厚木市セーフコミュニティ推進協議会分科会委員名簿
- (11) 厚木市セーフコミュニティ3つの推進体制プラン
- (12) セーフコミュニティ審査項目 6つの指標とは
- (13) 安全・健康・コミュニティに関する調査報告書(令和6年1月発行)
- (14) セーフコミュニティリーフレット

資料1

資料2

資料3

資料4

参考1

参考2

参考3

参考4

6 会議概要

(1) あいさつ 山口 貴裕 会長

本日は、暑い中、令和6年度第1回厚木市セーフコミュニティ推進協議会にご出席いただき、感謝申し上げます。本市では「事故やけがは偶然の結果ではなく、予防できる」という理念の下、安心・安全に暮らせるまちづくりのためにセーフコミュニティ(以下、SC)を推進している。御協力を賜る皆様のお力添えに心から感謝する次第である。

セーフコミュニティの活動は、「愛の目運動」や「青パト」等に代表されるように、日夜、活動に取り組む地域の皆様の御協力により、安心・安全なまちづくりに寄与していただいている。多くの人々が、黄色いセーフティーベストを着用し、事故が起こりやすい交差点等で、子どもや歩行者の安全を見守る活動に取り組んでいる。このような地域の皆様の御協力に、深く感謝している。

ＳＣの取組も１６年の月日を経て、新たに時代に即した体制を見直す時が来たのではないかと考える。前回の本協議会会議から今日までの間に、ＳＣ推進協議会分科会にて、ＳＣの今後の推進体制について話し合っていた。その結果を本日、報告いただくと聞き及んでいる。皆様方からも、厚木市ＳＣの今後について、貴重な御意見を賜りたい。

昨年度、実施した調査でも、３人に２人の市民の皆様が、お住まいの地区が安心・安全だと思うと回答していただいている。この結果は、従来、多くの皆様方に自立したＳＣの取組を展開していただいていたからこそその賜物である。

引き続き、ＳＣの更なる発展的な取組を皆様方にも御協力いただきたい。お力添えをいただくことを、何卒お願い申し上げる。

(2) 案件 議長：山口 貴裕 会長

ア 役員（副会長）の指名について

「セーフコミュニティ推進協議会設置規程」第５条第３項の規定に基づき、山口会長が今年度の副会長を指名した。

自治会連絡協議会 会長 遠藤 明司 様

厚木医師会 監事 笹生 正人 様

【遠藤副会長挨拶】

ＳＣ推進協議会は、本日が今年度第１回目の会議だが、分科会では何度も会議で厚木市ＳＣの今後について検討を重ねてきた。厚木市の安心安全について様々な意見があったので、後ほど報告させていただく。皆様の忌憚のない意見・質問をお願い申し上げます。

【笹生副会長挨拶】

山口市長から、ＳＣの活動開始から１６年経ち、新しい時代として積極的に取り組んでいきたいというお話を伺い、その一助となれればと考える。

イ 令和６年度セーフコミュニティ活動スケジュールについて

資料１

令和６年度ＳＣ活動スケジュールについて、資料１に基づき事務局から説明した。

【委員意見及び質問等】 なし

ウ 厚木市セーフコミュニティの今後の推進体制について

資料 2、3、参考 1、2、3、4

【事務局説明概要】

参考 1 に基づき、前回会議にて、「国際認証を継続しない自治体が増えていること」、「2015 年に WHO（世界保健機関）が、SC 協働センターを閉鎖して以降、認証機関と WHO の関係を裏付けるものがないこと」、「国際認証を継続することにより 1 回の認証につき約 1,300 万円の経費がかかること」の 3 点を確認したこと、及び、SC の今後の方向性について実際の SC 活動を担っている対策委員会と行政の代表者（参考 2）によって本協議会分科会を組織し、検討することが決定されたことを再確認した。

【分科会会長報告】分科会会長：遠藤 明司 副会長

SC の今後の推進体制は、従来の国際認証の継続ではなく、資料 2 下段に示されている厚木市独自の推進体制である SC 厚木モデルにて推進する方針が、分科会の意見としてまとまった。

【事務局説明概要】

分科会が、SC 厚木モデルにまとまった経緯について次のとおり説明した。

資料 2 に基づき、上段の従来の国際認証取得の体制及び費用、またそれに対する分科会委員意見について説明。

続いて、参考 3 に基づき、国際認証を取得しないが、SC の活動を継続するための推進体制について、検討された 3 案について説明。

資料 2 に戻り、検討案に対する分科会委員意見について説明し、最終的にまとまった SC 厚木モデルとその経費について説明。また、ポイントとなる外部評価機関については、現在、産業総合技術研究所の事故予防を専門とする研究員を中心に、新たな評価機関の組織を検討していることを説明。

次に、令和 4 年本協議会で承認された資料 3 の厚木市 SC 推進のためのロードマップについて、目標を 4 度目の国際認証取得としているため、SC 厚木モデルに移行する場合は、本ロードマップについても変更または廃止が伴うことを説明。

最後に、前回協議会にて、対策委員会の組織改正についても検討を求められていたが、現在、検討継続中のため、意見がまとまり次第、報告する旨を説明。

【委員意見及び質問等】

委員 対策委員会委員長として、分科会にも参加し、様々な角度から意見した。

また、他の委員からも数多くの貴重な意見があった。SC 厚木モデルに至

った経緯としては、従来の国際認証からこの体制に代わっても、厚木市民の安心安全な暮らし、まちづくりができると考えてこの結論に至った。ＳＣ厚木モデルは、まだ粗削りなところもあり、議論の余地もあるため、今後、整理しながらＳＣを盛り上げてまいりたい。表彰制度についても、評価基準を作ってまいりたい。

独自のＳＣ厚木モデルは、こうした議論の下まとまったもので、良いものだと自負している。皆様方に、他の御意見があれば伺い、反映させていきたいと考える。

【会長意見】

今後の推進体制については、分科会の検討結果のとおり、ＳＣ厚木モデルの体制で進めてよろしいか。御異議がないようであれば拍手をもって決める。

【委員】 拍手多数

【会長意見】

全会一致で拍手をいただいたため、ＳＣ厚木モデルにて推進させていただく。事務局は、外部評価機関についての選定を進めること。対策委員会の組織改正については、引き続き分科会にて検討すること。

- エ 令和５年度安全・健康・コミュニティに関する調査の結果について 資料４
令和５年度安全・健康・コミュニティに関する調査の結果について、資料４に基づき事務局から説明した。

【委員意見及び質問等】

委員 ６ページ、１５歳以上と１５歳未満の自宅内外での事故やけがの状況について、大きく異なることは何か。

事務局 こどものけがは、自宅外でのものが多く、大人のけがは自宅内外で大きな差異がないことが特徴である。また、こどもは自宅内での転倒はそれほど多くないが、大人の自宅内での転倒は多い状況である。

委員 転倒が多いという現状が、調査に現れていることが理解できた。

(3) 閉会 遠藤 明司 副会長

本日は、皆様に感謝申し上げます。安心安全なまちづくりのため、今後も分科会及び第２回日本協議会会議を進めてまいりたいと考える。よろしくお願い申し上げます。